

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 3 1	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption, mediating biomarkers, and risk of type 2 diabetes among middle-aged women. 中年女性におけるアルコール摂取、中間媒介生物学的指標および2型糖尿病のリスクについて	
執筆者	
Beulens JW, Rimm EB, Hu FB, Hendriks HF, Mukamal KJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Diabetes Care. 2008 Oct;31(10):2050-5	
キーワード	
中年女性 アルコール摂取 生物学的指標 2型糖尿病	
要 旨	
<p>目的： アルコール摂取と糖尿病との関連を各種のアディポネクチン濃度や各種生物学的指標（炎症、血管内皮機能障害、インスリン抵抗性）が中間媒介するかを検討する。</p> <p>方法： コホート内症例対照研究 (nested case-control study) として糖尿病発症女性 705 人と対照 787 人において、ベースラインのアルコール摂取とその後の糖尿病のリスクについて炎症・内皮機能障害の生物学的指標 (C-反応性タンパク、血管細胞接着分子-1、細胞間細胞接着分子-1、E-セレクチン、腫瘍壊死因子-α 受容体 2、インターロイキン-6) および空腹時インスリン、アディポネクチン濃度で調整する前後の関連を調べた。</p> <p>結果： アルコール摂取は糖尿病のリスク低減と関連が見られた。一日あたりアルコール 12.5 グラムの増加に伴う糖尿病発症のオッズ比は 0.58 (95%信頼区間 0.49-0.69, $p < 0.001$) であった。BMI で調整すると、この関連は 25%減弱した。空腹時インスリンと炎症指標の全てにおいて、上記の関連を 2%以上説明するものはなかった。BMI で調整しない場合は、これらの生物学的指標は関連を若干強く説明したが、いずれも 10%未満であった。アディポネクチンは全てを調整したモデルでは 25%、BMI で調整しないモデルでは 29%の関連を説明した。</p> <p>結論： 本対象者女性において、アルコール摂取は糖尿病発症と負の関連を認めた。アディポネクチンはこの関連を媒介すると考えられたが、炎症や血管内皮機能障害の生物学的指標また空腹時インスリンはこれらの関連を説明しなかった。本研究の結果、アルコール摂取にて影響を受ける他の生物学的指標の果たす中間媒介的役割について、さらなる研究が必要であると考えられた。</p>	